国際シンポジウム

別紙

メディア芸術ナショナルセンター（仮称）への期待

～アニメーションのアーカイブにおける意義と役割

International Symposium

"Expectations for the National Center for Media Arts (tentative name): The Significance and Role of Archiving Animation"

Manga, Animation, Tokusatsu & Game Preservation Initiative

2.15 Sun（日） 2026

13:30 ≫ 17:30（開場 Doors open at 13:00）

赤坂インターシティコンファレンス 4F the AIR

Akasaka Intercity Conference Center- 4F, the AIR

*3Fの入口よりお入りください。
東京都港区赤坂1-8-1 赤坂インターシティAIR内（溜池山王駅14番出口直結）

*Please enter via the entrance on the 3rd floor.
(Akasaka Intercity AIR, 1-8-1 Akasaka, Minato-ku, Tokyo)

プログラム・出演者（五十音順）

はじめに：
庵野 秀明
（認定NPO法人 アニメ特撮アーカイブ機構［ATAC］理事長）よりメッセージ

第一部：海外ゲストによるレクチャー

メアリー・ウォルシュ
（ウォルト・ディズニー・アニメーション・リサーチライブラリー／ウォルト・ディズニー・インク＆ペイント部門 マネージングディレクター）

メーガン・ドハーティ
（映画芸術科学アカデミー マーガレット・ヘリック図書館 グラフィックアート部門・シニアマネージャー）

トム・ラーナー
（ゲティ保存研究所 科学部門ヘッド）

第二部：パネルディスカッション「メディア芸術ナショナルセンター（仮称）への期待」
（事例発表：日本におけるアニメーションのアーカイブの実践）

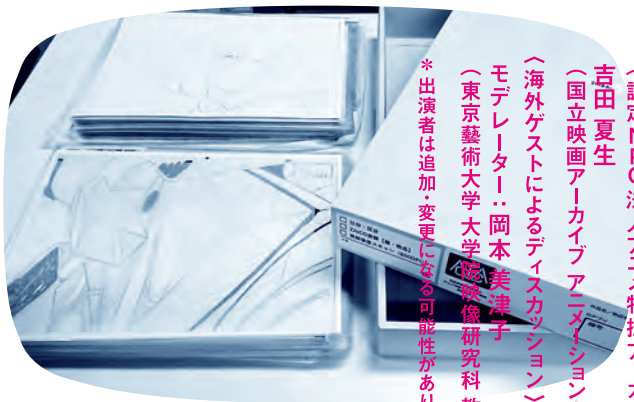
近藤 文吾
（株式会社バンダイナムコフィルムワークスSUNRISE Studios制作管理部ゼネラルマネージャー）

三好 寛
（認定NPO法人アニメ特撮アーカイブ機構［ATAC］事務局長）

吉田 夏生
（国立映画アーカイブ アニメーション室 研究員）
（海外ゲストによるディスカッション）

モデレーター：**岡本 美津子**
（東京藝術大学 大学院映像研究科 教授）

※出演者は追加・変更になる可能性があります。



画像提供：認定NPO法人 アニメ特撮アーカイブ機構（ATAC）
©株式会社スタジオぬえ ©DAICON FILM

文化庁令和7年度マンガ・アニメ等中間生成物の保存活用事業

参加費：無料
参加方法：事前申込制・先着順
*下記のQRコードより2月11日（水）までにお申し込みください。
主催：文化庁、独立行政法人国立美術館
*日英同時通訳
*オンラインでの同時配信は行いません。

Admission: Free
How to Join: Advance registration required;
Please register via the QR code below by Wed, 11th of February.
Organizers: Agency for Cultural Affairs, Government of Japan
The National Museum of Art, Independent Administrative Institution
*Japanese-English simultaneous interpretation available
*The event will not be streamed online.

お問い合わせ先
独立行政法人国立美術館中間生成物保存活用委託事業事務局 国際シンポジウム事務局 電話：03-5369-4529 E-mail：chukan_symp@nta.co.jp

文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

世界的に注目を集める日本のアニメ、特撮、マンガ、ゲーム。その制作現場で生まれた原画やセル画等の貴重な資料をどのように未来へと手渡していくか。日本では、こうした資料をアーカイブする取り組みが進んでいます。その歩みの先には、これらの分野の拠点となる国立のセンターの設置も期待されるでしょう。
本シンポジウムでは、日本にそのようなセンターが設立されたらいかなる役割が求められるのかを、国際的な視点から探ります。「アニメーションの保存」をテーマに、先進的な取り組みを行う海外機関からゲストを迎え、国内の最新事例とともに未来のアーカイブの姿について意見を交わします。

International Guest Speakers:
Mary Walsh (Managing Director, Walt Disney Animation Research Library and Walt Disney Ink & Paint Department)
Meghan Doherty (Senior Manager of Graphic Arts, Margaret Herrick Library, Academy of Motion Picture Arts and Sciences)
Tom Learner (Head of Science, Getty Conservation Institute)

Speakers:
Hideaki Anno (Chief Director, Non-Profit Organization Anime Tokusatsu Archive Centre [ATAC])
Mitsuko Okamoto (Professor, Graduate School of Film and New Media, Tokyo University of the Arts)
Bungo Kondo (General Manager, Production Administration Department, SUNRISE Studios, Bandai Namco Filmworks Inc.)
Kan Miyoshi (Chief of Secretariat, Non-Profit Organization Anime Tokusatsu Archive Centre [ATAC])
Natsumi Yoshida (Assistant Curator, Animation Division, National Film Archive of Japan)

出演者（海外ゲスト）プロフィール

メアリー・ウォルシュ（ウォルト・ディズニー・アニメーション・リサーチライブラリー／ウォルト・ディズニー・インク＆ペイント部門 マネージングディレクター）
ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオで31年のキャリアをもち、2007年以降、アニメーション・リサーチライブラリー（ARL）とインク＆ペイント（I&P）部門の指揮を執っている。現職に就く以前は、ディズニー・アニメーションにおいて、開発、制作マネジメント、人材育成・教育・採用関連業務など、10年以上にわたり複数の役職を務めてきた。
ARLでは専門チームを率いて、世界最大規模のアニメーション資料コレクションである総数6,500万点以上のオリジナル資料を適切に保存し、そのアクセスを可能にしている。
ARLは、社内の新規の作品制作や商品開発を支える各種プロジェクトを手掛けるほか、外部の研究者、歴史家、作家と連携し、ウォルト・ディズニー・スタジオがアニメーションの芸術に与えた影響を研究している。
インク&ペイント部門においては、アーティストたちとともに、1920年代から受け継がれてきたディズニーの芸術における伝統を守っている。セルへの手作業のハンドトレスと彩色というクラシックなディズニー・アニメーションの象徴的な技法は、現在も行われている。

メーガン・ドハーティ（映画芸術科学アカデミー マーガレット・ヘリック図書館 グラフィックアート部門 シニアマネージャー）
2021年より映画芸術科学アカデミーに勤務。現在は、マーガレット・ヘリック図書館グラフィックアート部門のシニアマネージャーとして、アニメーションの原画、プロダクションアート、衣裳デザイン、ポスターなどを含む800点以上のコレクションを統括している。アカデミーに参加する以前は、ロサンゼルス・カウンティ美術館にて現代美術のアシスタント・キュレーターを務め、映画、マルチメディア、インスタレーション作品の収蔵・プログラム運営を専門とし、「スタンリー・キューブリック展」（2012年）から「奈良美智展」（2020年）に至るまで、幅広い展覧会に携わった。また、米国国務省教育文化局による外交プログラムである「アメリカン・フィルム・ショーケース」において、広報業務も担当した。南カリフォルニア大学にて図書館情報学におけるマネジメント修士号を取得し、同大学で歴史学および映画・テレビ批評研究の学士号を修めている。

トム・ラーナー（ゲティ保存研究所 科学部門ヘッド）
ロサンゼルスのゲティ保存研究所（GCI）の科学部門ヘッドであり、同研究所におけるすべての科学研究を統括するとともに、視覚芸術における保存の実践を推進する各種プロジェクトを監督している。2014年より現職。GCIには2007年に上級研究員として参加し、近現代美術研究イニシアチブの設立を担当した。当初は近代絵画、プラスチック（アニメーションセルを含む）、現代屋外彫刻の保存に重点をおいていたが、その後現代美術保存のより広範な課題へと対象を拡大し、様々なシンポジウムや展覧会も開催してきた。専門は化学であり、1988年にオックスフォード大学で修士号を、1997年にロンドン大学バークベック校で博士号を取得している。さらに1991年にはロンドンのコートールド美術研究所でイーゼル絵画保存修復のポストグラデュエート・ディプロマを取得。GCIに移る以前はロンドンのテート美術館に14年間勤務した。2010年より現代美術保存のための国際ネットワーク（INCCA）諮問委員、2008年～2014年に国際博物館会議保存国際委員会（ICOM-CC）現代材料・現代美術ワーキンググループのコーディネーターを務め、現在は国際文化財保存学会（IIC）理事兼大会委員長を務める。

「中間生成物保存活用委託事業事務局」について

令和６年度より、独立行政法人国立美術館内に事務局を設置し、マンガ・アニメ・特撮・ゲームの原画やセル画等をはじめとした中間生成物の収集・保存・活用に係る調査研究等を行っています。
各分野の専門家を委員に迎えた「中間生成物保存活用検討委員会」を開催し、収集・保存・展示のあり方を検討する議論を深めているほか、特定の作品の資料調査を行うモデルケースの実施や海外との連携も進めています。